

消防団用油圧ジャッキ 取扱いマニュアル

DPR-10



目次

| | | | |
|---|----------------|-----|---|
| 1 | 「概要」・「諸元」 | 2 | P |
| 2 | 「各部の名称」 | 3 | P |
| 3 | 「操作要領」 | 4~5 | P |
| 4 | 「各アタッチメントの使用例」 | 6 | P |
| 5 | 「許容能力例」 | 7 | P |
| 6 | 「エアー抜き要領」 | 8 | P |
| 7 | 「保守管理」 | 9 | P |
| 8 | 「使用上の注意事項」 | 10 | P |
| 9 | 「使用状況例」 | 11 | P |

「概要」

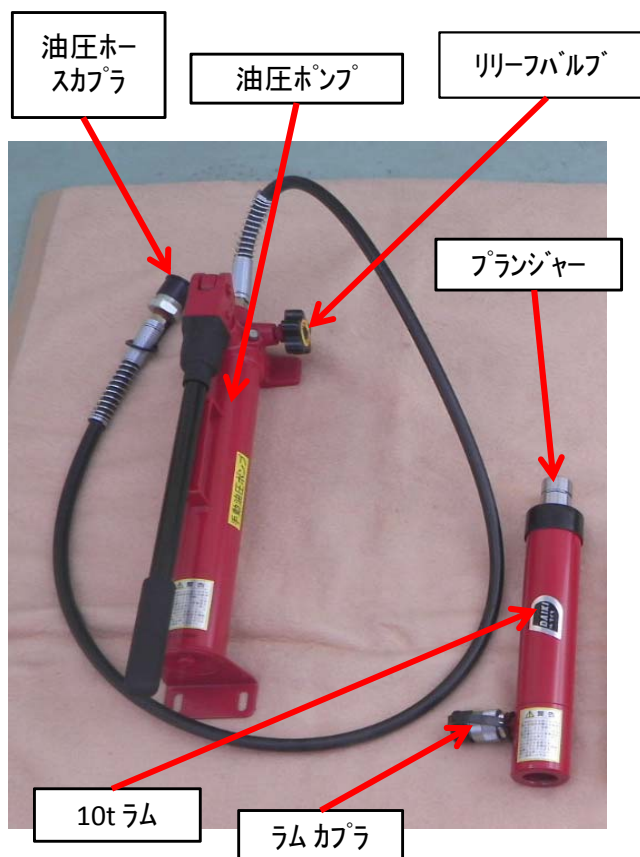
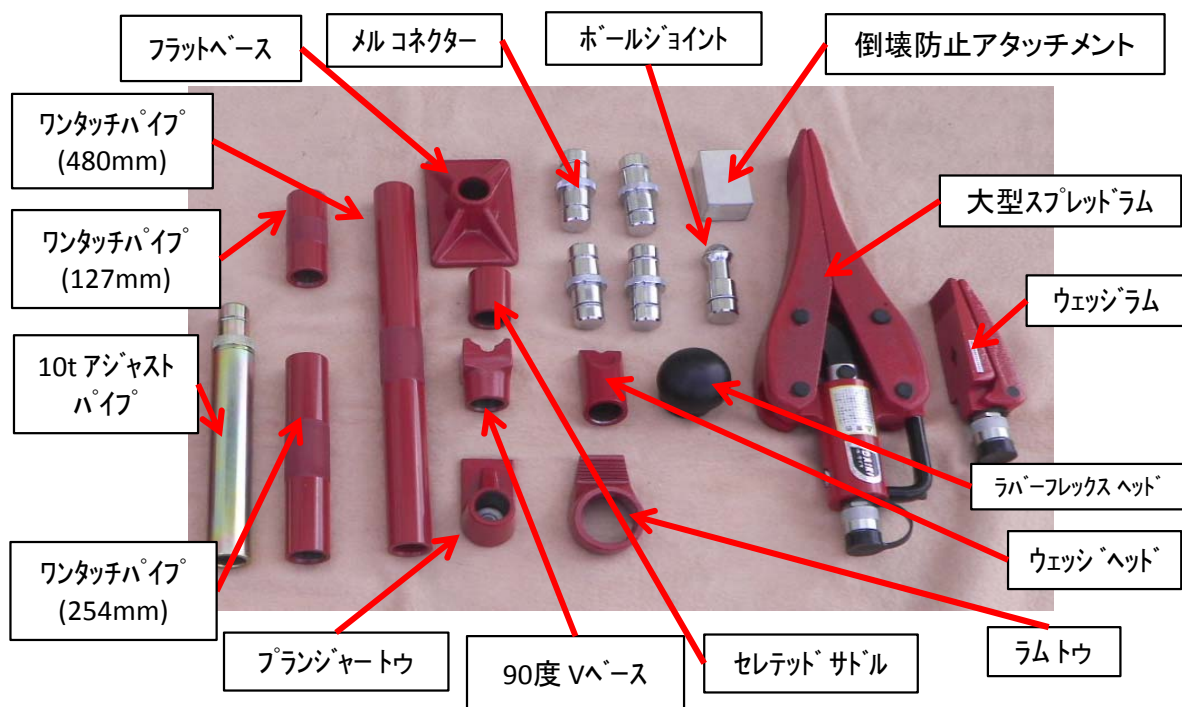
油圧ジャッキは、各種アタッチメントを組み合わせる事で、重量物や障害物の持上げ、拡げ等の作業を行うことが出来る。

「諸元」



| | |
|-------|-----------------|
| 製 造 | 株式会社 ダイキ |
| 品 名 | DPR-10 レスキューセット |
| 製造番号 | 15YH109 |
| 専用オイル | ISO VG 15~32 |
| 最大荷重 | 10 t |

「各部の名称」



メタルBOX

「操作要領」

《組立て》①



「油圧ホースカプラ」を
「ラムカプラ」に接続する。

②



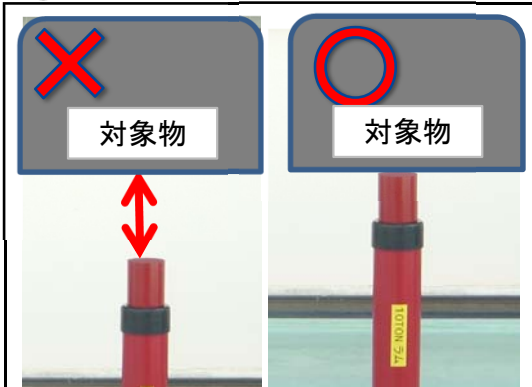
ロックを必ず掛ける。

③



状況に応じて、各種アタッチメントを選定して
組立てた後、搬送して設定する。

④



能力を最大限に活かす為対象物と
アタッチメントの間にスペースを空けない。

《持上げ・拡張》⑤



「リリースバルブ」を閉じ、「ポンプハンドル」を上下に操作する。

「操作要領」

《降下・縮め》 ⑦



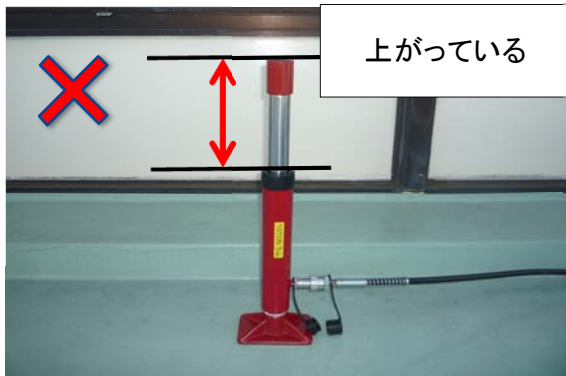
周囲に人がいないことを確認、ゆっくり「リリースバルブ」を開放する。

⑧



圧力を抜き、設定箇所から10tラムを取り出し、各アタッチメント等を取り外す。

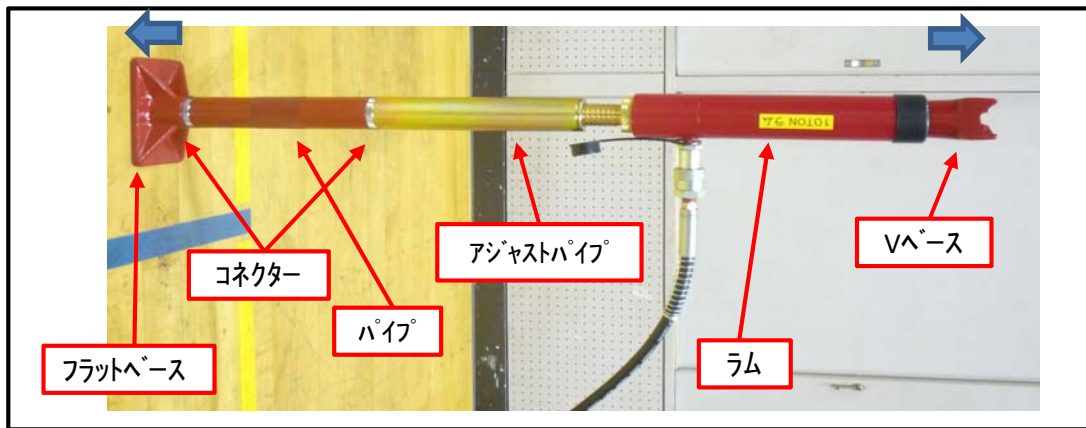
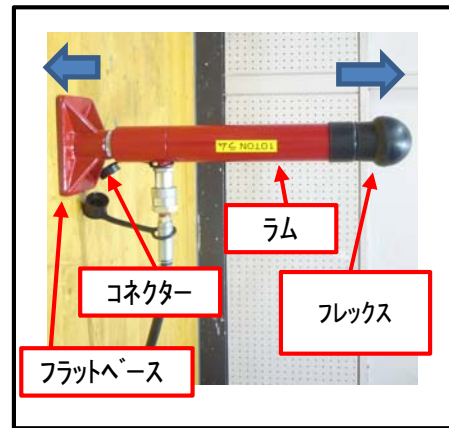
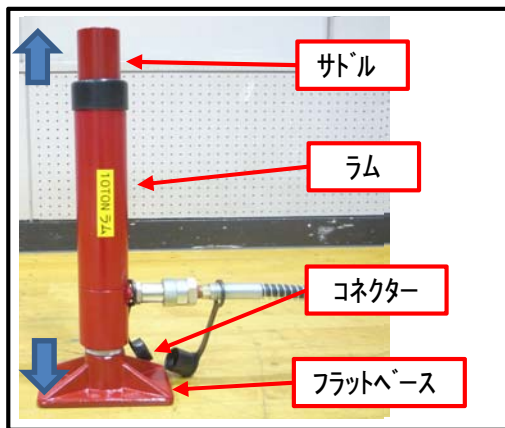
⑨



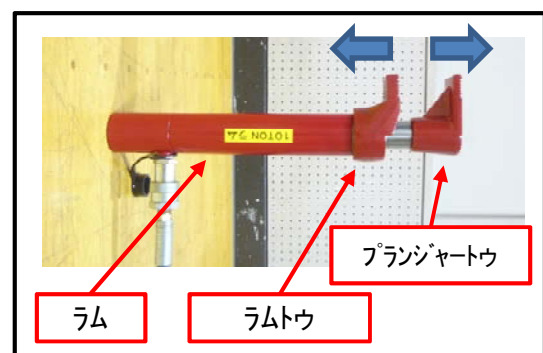
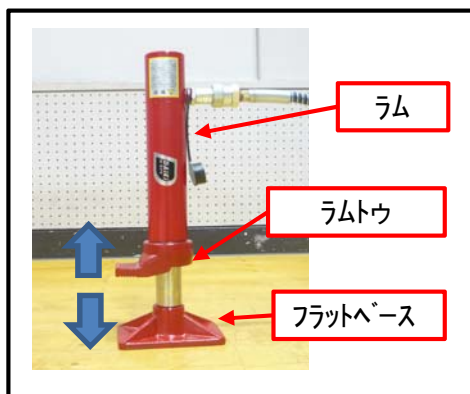
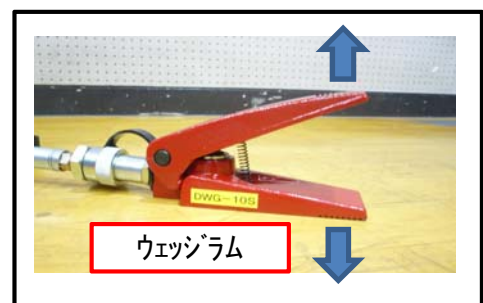
必ず「プランジャー」が最後まで下がっていることを確認してからBOXに収納する。

「各アタッチメントの使用例」

《広いスペースでの持上げ・押し作業》



《狭いスペースでの拡げ作業》



「許容能力例」

最大能力は10t、そこから組み立て方により強度を減少させて許容能力を計算する

計算に影響があるのは「スプレッドラム」・「ウェッジラム」・「パイプ」・「ラムトウ」・「プランジャートウ」を使用した場合である

| | |
|--|--------|
| 「スプレッドラム」「ウェッジラム」を使用した場合 | 1 t |
| 「パイプ4種類」「ラムトウ」「プランジャートウ」のうち、1つでも使用した場合 ※「ラムトウ」と「プランジャートウ」はセットでも単体でも50%に減少 | 5 t |
| 「パイプ4種類」「トウ(ラムとプランジャー)」のうち、2つ使用した場合 ※「ラムトウ」と「プランジャートウ」どちらか1つでも使用していればカウントする | 2.5 t |
| 「パイプ4種類」全て使用した場合 | 600 kg |
| それ以外のアタッチメントを使用した場合 | 10 t |

《例》



「ラムトウ」
「プランジャートウ」
使用

10tの50%減少で
許容能力は5tとなる。



減少に関係ある
アタッチメントは
使っていない

許容能力は
10tとなる。



「パイプ」2つ使用
許容能力は2.5tとなる。

「エアー抜き要領」

油圧ラムがスムーズに作動しない場合やポンプ操作をしても作動しない場合は、エア混入が考えられるため、下記の要領でエア抜きを実施する。

《油圧ポンプの場合》 ①



ポンプを水平な場所に設定する。

②



「リリースバルブ」を緩め、
「ポンプハンドル」を数回操作する。

③



「給油口ネジ」を一旦緩めて、
エアを排出した後必ず
「給油口ネジ」を締める。

《油圧ラムの場合》 ①



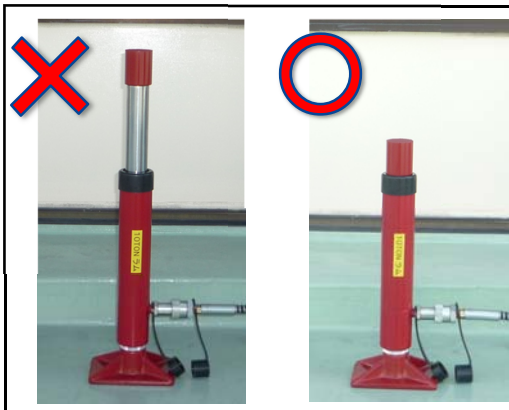
「油圧ポンプ」を「ラム」
より高い位置に設定する。

②



「ラムカプラ」部を上方向に向け
無負荷の状態で「油圧ポンプ」を
上昇降下を数回繰り返す。

「保守管理」



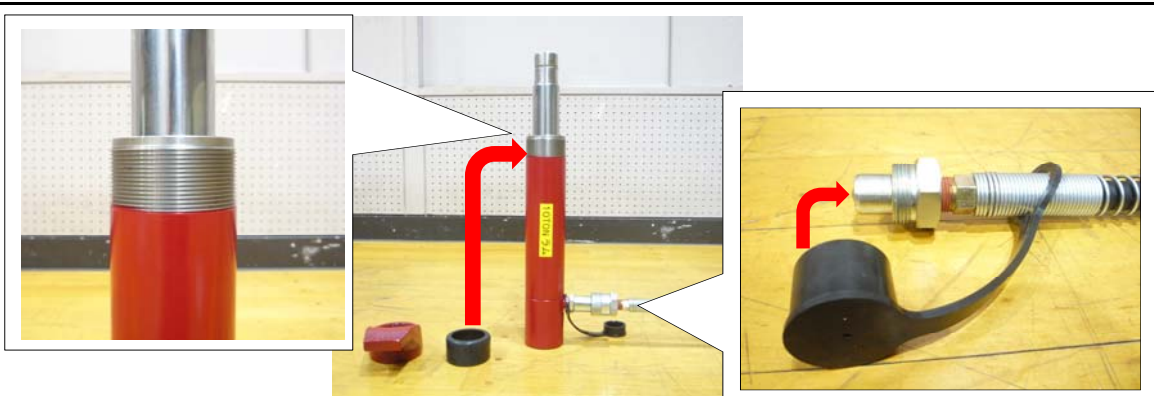
使用後は、必ず「プランジャー」を
最小位置まで戻して保管する。



機器に付着した汚れ、オイル等を
乾いた布等で拭き取る。

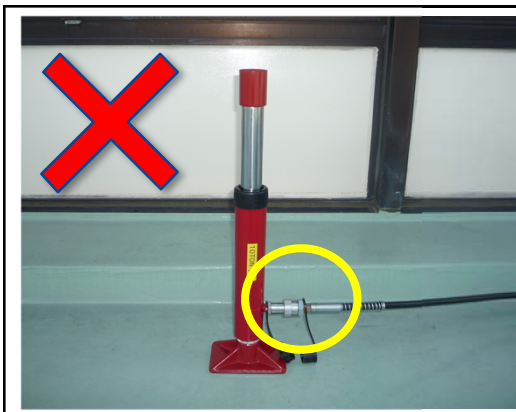


「給油口ネジ」は
必ず締めて保管する。



「ネジ山部分」には、保護の為必ずゴム等でカバーをする。

「使用上の注意事項」



ポンプを加圧した状態で「カプア」の取外しは絶対に行わないこと！



ハンドル操作時、または加圧時にハンドルの真上に顔や身体を近づけないこと！



使用前にポンプ、ラム、各アタッチメントの変形、傷、オイル漏れ等の状況を確認すること！



「ラムトウ」を取付ける場合は右にめいいっぱい締めつけた後、左に少し戻してから操作すること！

※締めつけたまま荷重を掛けると外せなくなることがある。

「使用状況例」

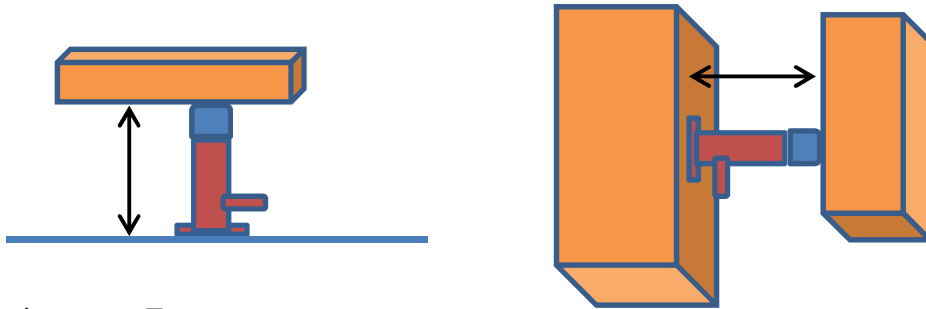
油圧ジャッキは、倒壊した建物や事故車両でアタッチメントを組み合わせることで救助活動や障害物の持ち上げ作業・押し作業・拡げ作業を行うことが出来る。

【持ち上げ作業・押し作業】

＜例＞

・倒壊した建物の梁、壁、軒下、柱などの持ち上げ作業・横向きにして押し作業

- (1) ラムが差込めるスペースが有る場合、最適な長さ・アタッチメントを選択する。
- (2) 爪とベースを利用して2つの物体の間隔を少し広げるという作業を行う。



【拡げ作業】

＜例＞

・倒壊した建物の梁、壁、軒下、柱、ドア、シャッター、家具などの拡げ操作

- (1) スペースが無い場合は、スプレッドラム、ウェッジラム、トウの爪を差込み拡げていく。

